



議会だより

けんぶち



©kembuchi town



学習発表会 カいっばい、ウォー!

一般質問 4 名が登壇	2 ~ 5
第 3 回定例会	6
所管事務調査	7 ~ 8
.....総務厚生常任委員会.....	
.....産建文教常任委員会.....	8 ~ 9
みんなの声がまちづくり.....	10

No.128

2019年11月発行
(令和元年)

発行：剣淵町議会
編集：議会広報特別委員会
〒098-0392 剣淵町仲町37番1号
☎0165-26-9020 (直通)
<http://www.town.kembuchi.hokkaido.jp>

問 産業経営者育成資金の見直しについて



岡 康熙 議員

答 増額する方向で検討を進めている

岡 康熙 議員

農林業センサスによると剣淵町では農家数が10年間で半数ほどに減少しているが、近年、町内ではUターン等で農業を志す若い農業後継者が増えており、大変期待している。

熱意を持って農業に取り組んでいる後継者が将来に希望を持ち、農業を継続し、新たな発想での取り組みができるよう町として後押しが必要である。

農家戸数が減少し、農家1戸あたりの経営面積が増加し、それとともに農家の負担する費用も大きくなっている。このことから、貸付限度額の増額と償還期間の延長、貸付資金内容についても柔軟性をもって要件を変更していくなど、見直しが必要と思うがどうか。

早坂 町長

産業経営者育成資金は平成2年に条例を制定し、これまで社会情勢の変化などに応じて貸付金の限度額改定など3度の見直しを行ってきた。

農家戸数は減少し、耕作面積が拡大し、農業機械の高度化など投資資金額も大きくなってきており、今後この傾向は進むとみられる。このことから、現在産業経営者育成資金貸付審査会では次年度に向けて貸付け内容の改正を協議・

検討している。
見直しについては増額する方向で検討を進めている。

岡 議員

現在、農業後継者に向け担い手育成支援事業による助成や、J Aと普及センターにより農業の基礎を学ぶ北ひびき農学校としての取り組みを行っている。

今後、若い農業後継者や新規就農者が、町内で農業に従事し継続していくためどのような後押しを考えているか。

早坂 町長

今後については、J Aと農業振興センターが協力し、産業の継承として新たなことができるか検討したい。



北ひびき農学校で学ぶ若手農業者

公園の整備について

岡 議員

町内には様々な公園はあるが、低年齢の子ども達が安心して遊べる遊具が不足している。

屋外での遊び場が限られている中、人が集まりより楽しめる公園が求められているが、今後の公園整備についてどのように考えているか。

早坂 町長

厳しい財政状況の中で遊具の更新を見合わせてきていたが、子ども・子育て支援施策の一つとして公園施設の充実も重要であることから、財政状況を考慮しながら最低限の遊具の設置を検討していきたい。

岡 議員

遊具などが撤去された公園について、公園として維持管理をしていくのか。他の用途へ転用することもあるのか。

早坂 町長

今後、公園の広さと利用状況、管理の負担によっては有効活用も考えていかなければならない。



佐藤勝彦 議員

問 小中学校のICT機器（電子黒板等） の環境整備について

答 国の整備5ヶ年計画の目標水準を
参考にICT環境を整えたい

佐藤勝彦 議員

現在全国の多くの自治体で各学校のICT機器関連の導入が急速に進み教育環境が変化している。平成30年度以降の学校におけるICT環境整備方針について「政府の有識者会議でも検討され新学習指導要領の推進をしていく」とあり、小中学校において今後どのようなICT機器の導入と校内の有線・無線LANを含むインフラ整備をしていくのか。

半田 教育長

今私達の社会は大きな変革期を迎え、日常生活でネット・SNS等のICT機器を用いるのが当たり前となっている。これからの社会は情報や情報手段を選択し、活用のための情報活用能力を身に付けることが重要になる。

文科省提示の2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針に基づき、教育のICT化に向けた整備5ヶ年計画の目標水準を参考に、ICT環境の整備を進めていきたい。

佐藤 議員

小中学校ではタブレット等の関連機器も導入されているが、それぞれの様に使われているか。

半田 教育長

導入状況は小学校にパソコン26台、タブレット6台、電子黒板2台、実物投影機4台、プロジェクター9台。中学校にパソコン36台、タブレット3台、電子黒板1台、実物投影機2台、プロジェクター3台。ともに無線LANは整備済みとなっている。

佐藤 議員

関連機器を導入しても施設内のインフラ整備が進まないと自由に使えない。今後有線・無線LAN・WiFiの整備についてはどうするのか。

半田 教育長

施設の環境整備については両校とも頻繁にはICT使用の授業を行なっていないので無線LANで対応できているが、常時高頻度で行なうならば高速無線LANが必要になり、WiFi機能を高める整備が不可欠になる。

佐藤 議員

本年度も児童交流事業が実施されているが、今後射水市・さぬき市の児童生徒間でICT機器を活用した交流事業はできないか。

半田 教育長

ICT機器使用の遠隔交流事業については研究していきたい。

佐藤 議員

教育委員会所管の会議では、ICT関連機器に関して今後の方向性や要望について話し合いがされているのか。

半田 教育長

総合教育会議は年3回緊急課題があれば開催しているが、ICT関連機器の活用に関しては協議課題としたい。

※ICTとは情報や通信に関連する科学技術の総称



ICT機器を活用した授業

問 剣淵町の働き方改革を どう進めるのか



酒井 修 議員

答 事務改善検討委員会で検討していく

酒井 修 議員

働き方改革については、今後本格的に実施されるが、逸脱している剣淵町の現状から今後どのような取り組みを行っていくのか。

個人的な考えで言えば、超過勤務の削減に向けては、各課の業務量に対し適正な人員配置が行われているのか検証する必要があると思う。特に総務グループに偏った長時間労働を減少しなければならぬ。これについては、条例担当の職員を配置すべきであり、現在、各課の業務内容が大変複雑化している状況にあり、剣淵町では約5年ごとに人事異動を行っているが、各課に数名の軸となる長期的な職員を配置すべきと考えるが。

早坂 町長

働き方改革については、剣淵町においても本年度中に条例、規則等の改正を予定しているところであり、超過勤務の削減に向けては、本年6月に副町長を委員長として、各課長職を委員とする事務改善検討委員会を立ち上げ、事務事業の見直しや、組織機構の改編の検討を進めている。一部の部署に業務が偏っている、専門的職員の配置

が必要との指摘は理解しているが、職員の資質向上を図るとともに、社会人などの中途採用職員確保も含めて適正な人員配置に努めていきたい。

また、情報技術の進化に伴い、各種業務が複雑化しているのは指摘のとおりだが、5年を超える長期間の職員を各課に配置することについては、該当職員の士気向上の妨げとなる面も考えられるため、その時々状況により、可能な限り適材適所での人事配置に努めていきたい。

酒井 議員

検討委員会での問題は山ほどあると考えているが、時間的な余裕はない。本当に思い切った考え方をしないと政府の言う超過勤務年間360時間、特殊な例でも720時間以内は間違いなくクリアできないと考える。ただ総務Gを見れば、毎日深夜まで業務を行っている現況では年間1000時間は簡単に超えるのではないかと。本当に職員の健康が気になる。それぞれ仕事は担当に任せ、担当の自己犠牲の中で行政が成り立っている。これは早急に改善しなければならぬと考えるが。

早坂 町長

超過勤務時間の削減に向けては、職員の配置が一つの課題であると思っている。

例えばベテランの職員を1人増やすことも必要だと思う。総合的に検討委員会の中で話していきたい。

また、法令等の専門職員となつてしまうと、職員は専門職員に任せという状況になるので、これらも検討委員会の中で協議していきたい。

酒井 議員

専門職員を置くと職員がその部分の勉強をしなくなるということだが、それは考えられないことだと思う。しつこいようだが、総務Gの業務量を削減するためには専門職員を置くべきだと考えている。思い切った考えの中で検討委員会を開催してもらいたい。十分な検討をしなければ、年間超過720時間は絶対クリアできないと思うており、全力で取組んでもらいたい。

酒井議員は旅費の宿泊料についても質問しています。



大澤秀明 議員

問 農業関連予算の見直しを行うべきでは

答 適切な輪作体系を進めていけるような施策、生産基盤改善等の支援を行っていききたい

大澤秀明 議員

近年、町においても大規模化を進める農家や、新たな作物に挑戦する農家など経営方針の多角化が進んでいる。一方、町の農業関連事業は良くも悪くも前年踏襲のものが多く、農家の実情に沿うものになっていくのかを考えていく必要があると思う。次年度予算策定に向けて内容を精査し、見直しを行うことでより農家が安定した経営に取り組んでいけるよう整備すべきでは。

早坂町長

近年農家戸数の減少により、農家一戸あたりの平均耕作面積の増加に伴い、労働集約型の品目へ作付けが増える傾向となっている。町独自の農業施策の見直しを行い、予算は限られているが、適切な輪作体系を進めていけるような施策、生産基盤改善などの支援を行っていききたい。

大澤 議員

近年ビートに関しては右肩上がりの作付けだが、馬鈴薯の作付けは減ってきている。町財政も厳しく大幅に農業関連予算を増やすことも厳しいことから、一定の成果が出たと判断できるものに関しては役目を終えたと判断し、思い切っ

て削減をし必要な部分を厚くしていく等の検討を進めるべきと思うがどうか。

早坂町長

栽培技術の向上により生産しやすくなったものなどについては、他の行政支援が必要な品目に変更していくことを検討したい。

大澤 議員

農業関連の各団体から緑肥に関する要望も上がってきていると思うが、輪作体系を考えてみることも重要と思うが。

早坂町長

馬鈴薯の作付け減少対策も町にとっては重要な事項であり、その点を支援していくか、輪作体系の支援策として緑肥がいいのか、農家の経営に少しでもプラスになるよう十分検討していきたい。

ブランド化推進事業の現状について

大澤 議員

現在地方創生事業の中のブランド化推進事業で「キヌア」の生産などに力を入れており、少しずつ形になってきていることと思うが、農家への周知がなかなか進んでい

ないように感じる。「じゃがいもプロジェクトはどうなった」という声も聞こえてくるほどである。多額の予算を投じている割にはさみしい現状であることから、今後どのように農家の協力を得て発展させていくのか伺いたい。

早坂町長

一歩一歩確実に事業を進めている途中であり、キヌア生産を始め各種PR活動も徐々に実を結んできている。形になってくれば全体に浸透し協力農家も増えてくると思うので、挑戦したい農家が挑戦できるよう今後生産組合や振興センターとも検討していきたい。



キヌアの収穫作業

第3回定例会

9/19

一般質問には4名が登壇したほか、町長から提出された議案は条例改正8件、規約変更1件、補正予算3件、人事案件が2件あり、慎重に審議を行い全て可決しました。

条例改正

●森林環境譲与税基金を新たに設置する。
目的は森林の整備や促進に関する事業に充てるための基金です。

●町給水条例・町公共下水道条例・町農業集落排水施設条例の一部を改正する。

消費税率が改正されたことに伴い、町水道、下水道及び農業集落排水に関する基本料金と超過料金の消費税相当額を8%から10%に改正するものです。

今回改定の具体例

家庭用水道基本料金は月31円、超過料金は1立方メートルにつき5円の値上げ、下水道では基本料金月24円、超過料金4円の値上げとなります。

●幼児教育・保育の無償化に伴い関連する条例3件を改正する。

内容は子ども・子育て支援法の一部改正に伴う標記の変更などの整備を行うものです。

また、町保育所の副食費は保育料に含まれており、今後子ども子育て支援と食育の充実を図るため、町の保育所に入所する子ども（町に住民票を有することが条件）の副食費は無償とするものです。

※保育料の無償化の対象者は3〜5歳児クラスと0〜2歳児クラスで、住民税非課税世帯です。

補正予算

●一般会計に509.3万円を追加し歳入歳出の予算額をそれぞれ38億320.6万円とする。

歳入の主な内容は、森林環境譲与税17.1万円、普通交付税250.6万円などです。歳出では宗谷本線活性化推進負担金が14万円、移住定住対策のU-Jターン者奨励金の対象者が4名増えたことにより82万円の増額。担い手対策推進では新規就農者8名から新たに申請があり、予算が不足するため120万円の増額です。さらにレークサイド桜岡の冷水・クーリングタワー更新工事に358.2万円の補正です。

開設当初から使用している冷温水発生機は経年劣化で修理不能であり、現在稼働中1台も故障の恐れがあるため2台とも更新するものです。



レークサイド桜岡の冷温水発生機

要望意見書

2件を採択しました。

●「子どもの貧困」解消、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元など教育予算確保・拡充と就学保障の充実に向けた要望意見書

要請団体…連合北海道釧路地区連合会

人事案件に同意

●教育委員会委員

●教育委員会教育長



阿部里美氏(新任)

東町
任期 令和元年10月1日
～ 令和5年9月30日



半田幸清氏(再任)

元町
任期 令和元年10月6日
～ 令和4年10月5日

○平成30年度健全化判断比率報告

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
— (15%)	— (20%)	3.9% (25%)	6.2% (35.0%)

※実質赤字額・連結実質赤字額がないため「—」と表示している。

※（ ）内は早期健全化基準数値を表示している。

○平成30年度資金不足比率報告

特別会計の名称	資金不足比率(%)
簡易水道事業特別会計	—(20%)
下水道事業特別会計	—(20%)

※資金不足額がないため、「—」と表示している。

※（ ）内は、経営健全化基準数値を表示している

●林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める要望意見書
要請団体…北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会

報告

総務厚生常任委員会 所管事務調査

西原学園とひらなみ荘 に関する調査

1. 調査日

令和元年6月13日

2. 調査事項

町内福祉施設の現状について

3. 調査の所見

剣淵西原学園は昭和55年4月に知的障害者更生施設として入所者定員50名で開設。

平成24年4月からは福祉制度の改正により、更生施設から障がい者支援施設に移行し、平成30年4月からは定員を40名に変更している。また、平成18年10月からは入所利用料が月額から日額制に制度改正されたことにより、収入面で施設運営の課題となっている。

開設以来40年が経過し、建物については様々な改修を重ねてきているが、施設の老朽化が目立ち、中でも外壁塗装は前回の塗装から17年が経過していることから、当面急いで行う必要がある。

また、入所者の高齢化と身体機能

能の低下も顕著になり、介護の必要度も高まってきているが、施設の現況の建物設備では介護機能を持ち合わせていない状況にある。入所者の身体機能の低下が年々増していくことが想定されることから、将来的なことを考えた場合、現在の建物における改修は限界にきていることもあり、完全バリアフリー化と特殊浴槽の導入、介護用トイレスペースなど介護の機能を持った建物となるように、地域の理解と行政の支援も得ながら移転新築も含め検討しなければならぬ。



西原学園の外壁状況

剣淵ひらなみ荘は、平成元年4月に定員を入所者50名、短期入所2名、通所介護10名とし開設。その後、利用者の状況等から現在は短期入所6名、通所介護18名となっており、剣淵町や近隣市町村の高齢者福祉の向上に貢献してきている。

平成27年度の介護報酬がマイナス改定されたことにより、施設運営に与える影響は非常に大きく、今後国・県の財政状況の悪化により介護報酬の更なるマイナス改定も想定されることから、厳しい経営状況が続くと思われる。少しでも各種加算分を取得することでの経営の安定化を図るよう努めてもらいたい。また、積立金が減少する中で、施設の老朽化による補修費の増加や改修にも苦勞しているところであり、31年経過した施設としては施設特有の臭いもなく清潔だが、今後施設の大規模改修をどうしていくのか考えていかなければならない。さらには、今後、国の制度改正により軽度者の切り捨て等が行われる可能性もあり、このことについても町と一体となって対応を協議していかなければ



ひらなみ荘でのデイサービスの様子

ならない時期が来ると考える。福祉施設の運営を継続していくために職員を確保することは重要であり、剣淵高校や町と連携していくことが必要である。

剣淵西原学園、剣淵ひらなみ荘ともに国の福祉施策等により、施設を取り巻く環境が変化し、施設運営に大きな影響を及ぼしている状況にある。施設開設以来、地域とともに歩んできた施設であり、今後、さらに高齢化が進行する中、両施設を運営する社会福祉法人はもとより、行政・住民もこれからの施設のあり方について考える必要がある。

社会福祉協議会に 関する調査

1. 調査日

令和元年8月26日

2. 調査事項

社会福祉協議会の運営について

3. 調査の所見

少子高齢化、核家族化などの進行により、地域を取り巻く状況も大きく変化し、福祉に対するニーズやサービス、課題も多様化・複雑化してきている。

こうした中、本町においては65歳以上の高齢化率が40%を超え、住み慣れた地域で安心して自分らしく生活できる地域づくりに向けて、地域福祉を推進してきている社会福祉協議会の役割は年々大きくなっており、現在まで多種多様な事業を展開してきている。特に最近では新たな事業を開始するなど、地域福祉活動に積極的に取り組んできている。

一方、近年社会福祉協議会の財政運営は厳しさを増しており、特に大きな事業の一つである介護保険事業による減収は、法人の財政運営に大きな影響を与えている。訪問介護事業718万円、居宅介

護支援事業119万円、通所介護事業110万円ほどの赤字になっており、平成30年度では事業活動収支全体で約912万円の赤字となり、普通預金を取崩すことで収支の均衡を図っている。このような状況が続いた場合は今年度末にも預金が底をつく恐れがあり、次年度以降の福祉サービス等への影響も危惧される。健全な財政運営に向け、人件費の総額や事業内容の見直しなど、早急に検討すべきと考える。特に事業では形骸化しているものや、長年取組んできたものなどは、時代の変化もあり精査すべき点多いと思われる。

今年度から各種事業に、町からの補助金及び委託料を合わせて300万円増額となっているが、これを最大限に有効活用すべきものとする。さらに、地域福祉のニーズや課題等に応えるべく新たな事業が増えてきているが、収支の抜本的改善に向けて町と協議すべきと考える。

高齢者をはじめ地域住民それぞれが住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、剣淵町の地域福祉のあり方を全町民で考える体制づくりをすべきである。

産建文教常任委員会 所管事務調査



各団体の状況説明を受ける

教育委員会関係の 組織団体に関する調査

1. 調査日

令和元年6月20日

2. 調査事項

教育委員会関係の組織団体について

3. 調査の所見

今回の調査では、教育委員会に関係する組織団体（以下「委員会等」という。）として、学校教育12件、社会教育11件について調査をした。

調査した委員会等については、設置目的により会議開催数や活動日数は様々である。会議や活動が少なく、その内容が類似するものについては、組織を統一するなどにより効率化を図ることも必要と

思われるが、法律等によって設置されているものも多い。

教育委員会では、これまでも長年同じ形態で残るもの、時代の変化で役目を終えた委員会等の効率化は進めてきており、それらは引き続き行っていくべきである。

委員会等を構成する委員では、各団体の代表者が任命されているものが多く、このことが委員の負担となっているところもあると考えられる。アンケート調査を行うなどにより、委員会等のあり方や構成員などについて検討していくべきである。

また、法律等によらない任意の委員会等については、年1回の会議のみというものなどもあり、一本化できる可能性のあるものは積極的に統合を図り、事務・事業の効率化を目指すべきである。

学校教育や社会教育など教育委員会が所管する事業には、住民の生活に活力を与える事業が多い。

町の人口が減少し限られた中で、これからも構成員の確保、事業の継続を考えていかなければならないことから、今後も時代の変化に対応し事務・事業の精査を行いながら、教育の充実に向けて取り組んでいくことを望みたい。

建設課関係の土木調査

1. 調査日

令和元年8月27日

2. 調査事項

土木調査

3. 調査の所見

今回の現地調査となった20件のうち7件を実施可としたところである。今回の要望箇所については、農村部の道路補修とトラフに関するものが多かった。

調査では、再生合材を使用した舗装道路の経年劣化により損傷した箇所の補修があげられたが、現在、同材の入手が困難であるため、簡易な補修以外は難しい状況となっている。再舗装する場合の費用も多額となることから、年次計画を立て、コストのかからない資材の活用や工法を検討しながら、要望に応えるよう努めていく必要がある。

農村部の排水に関する要望では、近年は特にトラフの要望も多いが、整備には多額の費用がかかることから、限られた予算の中では全てに対応することは厳しい。関係者の理解を得ながら、緊急性の高い



現地での調査の様子

ものから実施していく必要がある。調査にあたり、要望箇所では各自治会や地先で草刈りなどの管理がしっかり行われている所が多いが、調査の際に確認しづらい所もあることから確認しやすいよう協力をお願いしたい。

町の財政は厳しいが、協働のまちづくりを基本とし、緊急性に十分配慮し多額な費用を要する箇所は年次計画で対応するなど、最小限の予算で最大限の効果になるよう努めるとともに、国や道に要望すべきものに関しては実現に向けて引き続き強く要望していくよう望むものである。

	自治会	箇所及び要望内容	可否	調査結果
1	旭町	神社線（神社付近の排水路）	保	一部可（草地じゃり対応）
2	〃	神社線（佐々木（春）宅前道路舗装・補修）	可	道路の穴埋め修理
3	〃	8号仲通り（8線道路～音無川通学路のため舗装）	不	道路の穴埋めは行う
4	〃	音無川（床さらい・排水ポンプ設置・JR鉄橋下流整備）	可	床さらいのみ可その他は道に要請含む保
5	〃	9線防風林（枯れ木伐採）	可	農林課対応
6	藤本町	9～12線（簡易舗装）	不	道路の穴埋めは行う
7	西原町	6号川（浅井宅～下流法面崩壊につきトラフ設置）	可	方法検討し年次計画で
8	〃	4号川（13線道路より上流法面崩壊につきトラフ設置）	不	部分的に応急処理
9	〃	尾崎（友）宅、尾崎（修）宅境界（排水路法面崩壊につきトラフ設置）	可	年次計画を検討
10	〃	13線川と14線川の合流点（土砂撤去）	可	合流点のみ建設課対応
11	〃	5号道路（西原郵便局～10線道路舗装の切れ込み補修）	保	経過観察
12	〃	12線（湯浅地先北側排水路トラフ設置）	保	トラフ設置は厳しいが管理を見直し経過観察
13	西岡町	9線（3～4号土ぼこりがひどく対応を）	不	緊急性なし道路の穴埋めは行う
14	〃	3号道路（7～8線トラフ設置）	不	緊急性なし
15	〃	足立線奥（旧児玉（健）宅の奥、横断管と川の排水さらい）	可	来年度対応
16	南桜町	南5線（簡易舗装かけ直し）	不	道路の穴埋めは行う
17	東町	東5号仲通（旧小笠原宅前舗装に）	保	地先と一度相談する
18	〃	刈分（西刈分鈴木（一）宅の農道舗装修理）	不	緊急性なし
19	元町	北3条までの東3丁目道路（道路拡幅と簡易舗装）	不	ほこり止めの舗装は現在計画中
20	〃	斉藤（勝）地先樋門周辺（排水路関係の調査）	—	現場確認のみ

みんなの声がまちづくり

①剣淵町をどう思いますか？

いい町だと思うし、町外の友人にも絵本の里の活動などいい町だと羨ましがられる。

平波大学の支援が充実している。町外から転入した人も大学に入り楽しんででいる。

穏やかな人が多く、町長とも話しやすい。

町の行事に関わりやすい。

西岡町

は せ がわ けん や
長谷川 憲 治 さん



②もし町長になったら何をしたいですか？

道の駅にハイウェイオアシス、スマートインターを造りたい。

直売所を広げ、トイレへの導線を改善し、売り上げ増を図る。

町民センターの大集会室の音響等を充実したい。

高齢化、後継者不足の中でも農業が自立できる支援体制を構築する。

①剣淵町をどう思いますか？

食べ物が美味しく、自然豊かで星がきれい。

素直で元気な子が多く挨拶してくれるので気持ちが良い。

②もし町長になったら何をしたいですか？

道の駅に観光案内所を作り情報を発信する。

案内所にコンシェルジュを置き、お客様に直に剣淵の魅力を伝える。

コミュニティーバスを運行させ道の駅から市街地や温泉方面にも観光客を誘導できるようにする。

剣淵町は国道から奥まっているのを逆手に取り秘境観光地コースとしてPRする。

西 町

ほん ま
本 間

かおり
香 さん



まちの未来を考えましょう！

議会傍聴に
おいでください

次の定例会は
12月19日開会の
予定です。



©kembuchi town

9月30日和寒町において、幌加内・和寒・剣淵3町議会議員研修会が行われました。

今回は講師に北海道森林管理局上川中部森林管理署長中澤文彦氏を迎え「我が国の森林・林業の現況と新たな森林管理経営制度の展開」として、森林・林業の課題や対応策について講演をいただきました。

その後は懇親会に移り、3町の議員同士で情報の交換や交流も深まり大変意義のある研修となりました。

3 町議会議員研修会